

日本の農業を救う カリスマ

連載⑤

石川 六星社長
石山 軽部 英俊さん

石川県白山市の株式会社六星(軽部英俊社長)を、2007年に株式会社に改組した。創業メンは、県で最大規模の稲作農業者を手がけている。面夫が現社長の軽部さん(55歳)。大手建材メーカー約30個分だ。農地は300人以上の地主から栽培請負の依頼を受けている。周辺の農家が高齢化し農地を借りて欲しいと要望から増えていっ

た。うるち米、もち米、酒米などを栽培している。最初は農家5戸からの集まりだった。設立は1977年。個人農業から集団農業になった先駆けだ。生産組合、有限会社

農業で若者の雇用を生む



農産物直売店の軽部社長(撮影・金丸弘美)

毎日買わない米、冬場には収穫できない野菜を生かした裏技

次に市の依頼で豆の入ったかき餅を始めた。そこから自社店舗や直販体パートの物産展で販売し、年の間30週以上出かけて個人販売を伸ばした。た。でも直売しても米は加工・直売店「むつほし」で売られ、冬場に野菜は採れません。で「餅」米、野菜が主力で、04年、白山市の農産物直売店「むつほし」に、住宅街にレストラン付きの総菜店「むつほし」を開業した。金沢百番街店、金沢市の住宅街にレストラン付きの総菜店「むつほし」を開業した。金沢百番街店、金沢市の住宅街にレストラン付きの総菜店「むつほし」を開業した。金沢百番街店、金沢市の住宅街にレストラン付きの総菜店「むつほし」を開業した。

農業生産から、加工餅が、営利法人化している。和菓子・総菜、販売農産物はうちだけです。説(卸・通販)、直売店(物明したあと就職に関心が販・レストラン経営)ある方は現場に来てもらい、売り上げは約13億円。社員37人。パートアルバイト76人。農業部門には10人が従事して、平均年齢は37歳だ。「石川県主催の企業説明会」で社員募集をします。農業ほどコミュニケーションが大切なんです。そのことを含めて説明して採用しています。資格は(取材・文)金丸弘美

二 かわり